

対カンボジア無償資金協力「国立母子保健センター拡張計画」起工式式典

6月2日（火）、我が国の無償資金協力による「国立母子保健センター拡張計画」の起工式が、国立母子保健センターで開催されました。

同センターは、首都プノンペンに位置し、3つの機能（行政・臨床・研修）を兼ね備えたカンボジア最大の産婦人科病院で、我が国の無償資金協力により1995年に建設されました。同センターは建設から15年以上が経過し、それぞれの機能が拡大しているとともに、患者数の増加等へも対応することが求められています。また同センターは母子保健分野の臨床研修機関として医療従事者への卒前・卒後研修を提供しており、近年、求められる医療サービスの高度化に伴う研修コースの多様化及び長期化に対応するため、施設の拡充が課題となっていました。

本プロジェクトでは、国立母子保健センターの研修棟の新設、医療機材の整備及び既存施設の改修を実施することにより、母子保健に係る臨床サービス、研修及び行政機能の向上を図ることで、カンボジアにおける母子保健サービスの改善に寄与することが期待されます。

式典では、まず司会者が来賓を紹介した後、タウン・ラタビー院長によるスピーチが行われました。続いて隈丸大使がスピーチを行い「国立母子保健センターが、医療サービスや研修事業を早期に行うことができるよう、本事業が進捗どおりに行われることを願う。」と述べました。最後に、モム・ブンヘン保健大臣は「日本政府支援のもと本事業が行われることに感謝する。国立母子保健センター職員は、日本から供与されたものを末永く大事に使用して欲しい。」と述べました。

続いて、隈丸大使及びモム・ブンヘン保健大臣による起工式の鍬入れが行われ、式典は終了致しました。



写真1 隈丸大使のスピーチ



写真2 モム・ブンヘン保健大臣のスピーチ



写真3 鍬入れの様子